



杉の子

令和3年9月30日(木)
見附市杉澤町 3561 番地
TEL 0258-62-0314
[http:// www.mitsuke-ngt.ed.jp/~mdaini/](http://www.mitsuke-ngt.ed.jp/~mdaini/)
教育目標 「学びを高める子ども」

第1回学校評価（中間評価）とこれからの取組について（お知らせ）

今年度、「自分のよさを見出し、よりよい学校生活をつくりだす子どもの育成 ～『自己の高まり』の自覚～」を重点目標とし、教育活動を進めてまいりました。7月の各種アンケート結果等をもとに、今年度1回目の学校評価を実施しました。その結果とこれからの取組の概要をお知らせいたします。

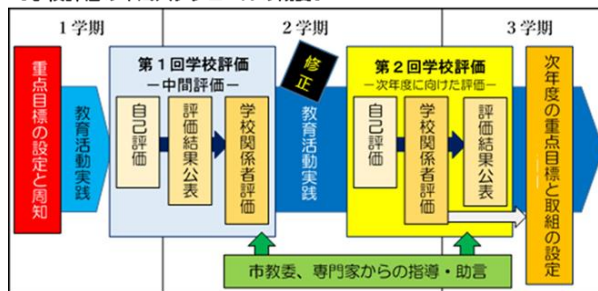
学校評価について

学校評価は、児童がより良い学校生活を送れるよう学校運営の改善と発展を目指すためにを行います。学校評価は、年間の教育活動について、

- ① 児童・保護者を対象に行うアンケートを資料に、学校の教職員による自己評価
- ② 自己評価の結果について保護者、地域住民の代表者による学校関係者評価
- ③ 自己評価・学校関係者評価結果を資料に学校運営全般について、専門的・客観的立場から評価する第三者評価

の3つの形態で構成されます。当校における学校関係者評価は、学校運営協議会において行っております。今回お示しするのは、学校の教職員による年度末の自己評価の結果です。

【学校評価の年間スケジュールの概要】



学校評価-1学期の教育活動と児童の様子

今年度も、新型コロナウイルス感染症予防対策を常に行いながら教育活動を続けてまいりました。保護者、地域の皆様のおかげで、子どもたちは元気に登校し、学習に、運動や遊びに、学校や学級の仕事に取り組むことができました。学校では今年度「自分のよさを見出し、よりよい学校生活をつくりだす子どもの育成 ～『自己の高まり』の自覚～」を重点目標としました。1学期を終えての子どもの成長の姿（概要）は次のとおりです。

- 知育(確かな学力)、徳育(豊かな心)、体育(健やかな心身)ともに、できることが増えて喜びを感じている子が多い。自分のがんばりに目を向け、自己の成長を自分のよさとして捉える姿が見られるようになった。
- 学力の基礎基本は概ね定着している。自他を大切に、支え合ってよりよく生活しようとすることはよくできる。メディアの使用状況の二極化が進み、生活習慣改善やメディア使用見直しが必要な児童がいる。

【年度重点目標】
自分のよさを見出し、よりよい学校生活をつくりだす子どもの育成
～「自己の高まり」の自覚～

地域・小規模校のよさを活かして

☆ 確かな学力
～基礎基本を身に付け、深く考える子どもの育成～
◎ 基礎学力の定着を図る取組
○ 家庭学習の活性化
● 「杉の子家庭学習ナビ」の活用
● 家庭学習プランニングの実施
○ 基礎基本定着の確認と徹底
● 漢字・計算タイムの実施
◎ 主体的な学びをつくる取組
○ 授業改善
● 考えをもつ場面と交流する場面での手立ての工夫
● 総合的な学習の時間指導計画「杉の子プラン」に準じた指導
○ 学びの習慣
● 「杉の子」でできる・わかるナビ」を活用した指導の実施

☆ 豊かな心
～自他を大切にのびのびと生活する子どもの育成～
◎ 社会性を育む取組
○ 体験活動とリンクさせた指導
● 豊かな体験活動の創出
➢ 総合的な学習の時間指導計画「杉の子プラン」の活用
➢ 地域と協働する活動の実施
➢ 異年齢協働活動の充実
● 体験活動事前・事後学習の充実
● キャリア・パスポートの活用とキャリア相談の実施
● 道徳科授業の充実・体験活動と関連付けた指導の実施
● 子どものアイデアを生かす特別活動の実施

☆ 健やかな心身
～自分の健康・元気を自分でつくる子どもの育成～
◎ 望ましい生活習慣・食習慣を育む取組
○ メディア・コントロール力の育成
● 教科等での学習指導と個別の保健指導の実施
● 生活ふりみえカードの活用
● 生活習慣強調期間の設定
● PTAと協力した子どもへの支援
◎ 体力向上の取組
○ 体育授業中の活動の工夫
○ 持久力、スピード、筋パワーの向上に焦点を当てた、集団運動(杉の子タイム)の内容と方法の工夫

子どもが
通ってよかっ
と思える
学校づくり

1 知育(確かな学力の向上) – 基礎基本を身につけ、進んで活用する子どもの育成 –

【成果目標】

- ① 月例テスト 90 点以上
- ② 家庭学習時間 10 分×学年の数以上
- ③ 学校以外で週4日以上読書
- ◇ 適切な学習指導がなされている (保護者)
- ④ 前よりも進んで考える
- ⑤ 学習したことをいろいろな場面で使う



【全校での取組】

- ◎ 基礎基本の定着を図る取組
 - 家庭学習の活性化
 - 「杉の子家庭学習ナビ」の活用
 - 家庭学習プランニングの実施
 - 基礎基本定着の確認と徹底
 - 漢字・計算タイムの実施
- ◎ 主体的な学びをつくる取組
 - 授業改善
 - 考えをもつ場面と交流する場面での手立ての工夫
 - 総合的な学習の時間指導計画「杉の子プラン」に準じた指導
 - 学び方の習得
 - 「杉の子できる・わかるナビ」を活用した指導の実施

【成果目標に対する評価】

※肯定的回答が 80%以上はA、70%以上 80%未満はB

成果目標	評価	
	前期	
① 月例テスト 90 点以上	B	家庭学習の習慣化が進みました。計画を立てて取り組むことにも慣れ、自主学習では、興味・関心のあることや復習に進んで取り組む姿が増えてきました。読書については、週2日以上取り組んでいる児童は91%います。読書を家庭学習のひとつとして計画的に取り組み、平日は教科学習を、週末に読書を行っている児童は複数います。結果的に週4日に満たなかったが本に親しむ姿はよく見られています。自分一人で考える場、友だちと考え合う場を設け、ノートにまとめる、タブレットを使って比較することを重ねたことが学習したことを使って進んで考える姿につながりました。
② 家庭学習 時間 10 分×学習学年の数以上	A	
③ 学校以外で週4日以上読書	B	
◇ 適切な学習指導がなされている (保護者評価)	A	
④ 前よりも進んで考える	A	
⑤ 学習したことをいろいろな場面で使う	A	

【後期に向けて】

- 授業場面での学び方を可視化した「杉の子できる・わかるナビ」が完成しました。このナビを使い基本的な学習習慣の定着を図ります。また、総合的な学習の時間「杉の子プラン」等の体験活動、教科学習での具体的な活動を大切に、その中で知り得たことをもとに自分なりに考える場面、他と交流しながら考えを深める場を大切に授業づくりを進めます。
- 主体的に家庭学習に取り組む姿が多くなっています。家庭学習カードと「杉の子 家庭学習ナビ」を活用した家庭学習プランニングと実践を進めるとともに、互いの自主学習の取り組みを紹介しあうイベント (自主学習フェス、7月に1回目実施) で取組への意欲向上を図ります。
- 「漢字計算タイム」の内容を点検、工夫、改善をさらに進めます。家庭学習のプランニング指導で、個の課題に応じた自主学習を行い、基礎基本の確実な定着を図ります。

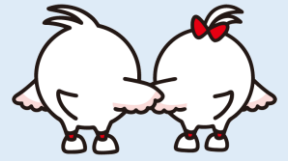
2 徳育(豊かな心) – 自分と友達を大切にすることの育成 –

【成果目標】

- ① 自分によいところがある
- ② 学級や学校で協力したことがある
- ③ 難しいことでも挑戦する
- ◇ 適切な人間関係づくりをしている (保護者)
- ④ ふるさとが好き
- ⑤ 人の役に立つ人間になりたい
- ◇ 地域とのかかわりを大切にしている (保護者)

【全校での取組】

- ◎ 社会性を育む取組
 - 体験活動とリンクさせた指導
 - 豊かな体験活動の創出
 - 総合的な学習の時間指導計画「杉の子プラン」の活用
 - 地域と協働する活動の実施
 - 異年齢集団活動の充実
 - 体験活動事前・事後学習の充実
 - キャリア・パスポートの活用とキャリア相談の実施
 - 道徳科授業の充実-体験活動と関連付けた指導の実施
 - 子どものアイデアを生かす特別活動の実施



【成果目標に対する評価】

※肯定的回答が80%以上はA、70%以上80%未満はB

成果目標	評価	
	前期	
① 自分によいところがある (3年生以上)	A	「自分にはよいところがある」と捉えている子が90%となりました。具体的なめあてを立てさせ、ふりかえりを丁寧に行ってきたことで、できるようになったことや上手になったことを自覚し、自信へとつなぐことができ、このことが前向きな生活態度(③や⑤)を生み出しています。
② 学級や学校で協力してうれしかったことがある (3年生以上)	A	
③ 難しいことでも挑戦する (3年生以上)	A	
◇ 適切な人間関係づくりをしている (保護者評価)	A	
④ ふるさとが好き	A	
⑤ 人の役に立つ人間になりたい	A	
◇ 地域とのかかわりを大切にしている (保護者評価)	A	

【後期に向けて】

「自分にはよいところがある」と、自己肯定感を高める姿が見られるようになってきています。一方で、子どもたちには、自分ができるようになったことや上手になったことについて、「こんなことを『よさ』と言うことははずかしい」と思ってしまう傾向があることも分かりました。当校のよさ・強みである、少人数と家庭的なあたたかいかかわり合いを大切に、互いに認め合い、支え合って生活し、よりよくなろうとする心をさらに育てていきます。

- 異年齢集団活動で様々な役割を経験することを通して、協働性、共生意識、自己有用感を高めていきます。
- 学校生活の節目や社会性育成の中核場面となる教育活動(体験活動、学校行事等)の指導では、事前・事後学習を大切にします。「めあて立て」「ふりかえり(自己評価)」と教育相談をリンクさせ、今の自分を見つめ、これからの自分について考え、ちょうどいめあてを決め、実践することを支え、自己決定力と目標に向かい粘り強く取り組む力を高めていきます。
- 「キャリア・パスポート」を活用し、自己のがんばりや成長を認識、自覚させ、自分のよさを捉え直すことを大切にして、自己肯定感を高めていきます。

3 体育(健やかな心身)－自分の心と体を鍛える子どもの育成－

【成果目標】

- ① メディア使用時間 1日2時間以下
- ② 休日の過ごし方を充実させる
- ③ 好き嫌いしないで食べる
- ◇ バランスのよい食事の提供(保護者)
- ④ 体力テスト(シャトルラン、50m走、立ち幅跳び)の記録向上



【全校での取組】

- ◎ 望ましい生活習慣・食習慣を育む取組
 - メディア・コントロール力の育成
 - 教科等での学習指導と個別の保健指導の実施
 - 生活ふりかえりカードの活用
 - 生活習慣強調期間の設定
 - PTAと協力した子どもへの支援
- ◎ 体力向上の取組
 - 体育授業中の活動の工夫
 - 持久力、スピード、筋パワーの向上に焦点を当てた、業間運動(杉の子タイム)の内容と方法の工夫

【成果目標に対する評価】

※肯定的回答が80%以上はA、70%以上80%未満はB

成果目標	評価	
	前期	
① メディア使用時間 1日2時間以下	B	自分で立てた計画をもとに休日も家庭学習の時間を確保し、規則正しく生活しようとする姿が見られるようになり始めています。その一方で、メディアの使用については、家庭での約束を守り適切に使用し楽しんでいる姿と、平日・休日ともに4時間を超す等、長時間に渡って遊んでしまう姿との二極化の様相が表れています。学校での指導と家庭と協力した実践・取組が必要です。体力向上については現在の取組を11月・12月の体力テストで点検する予定です。
ア テレビ・ビデオ・DVD 視聴 2時間以下	B	
イ ゲームをする時間 2時間以下	B	
ウ SNS使用、Web動画サイト視聴等 2時間以下	A	
② 休日の過ごし方を充実させる	B	
ア 計画的な家庭学習	A	
イ 規則正しい生活(早寝・早起き、食事)	B	
ウ 適度なメディア使用	C	
③ 好き嫌いしないで食べる	A	
◇ バランスのよい食事の提供(保護者評価)	C	
④ 体力テスト(シャトルラン、50m走、立ち幅跳び)の記録向上 ※今回は2~6年シャトルランのみR2・11月との対比(参考値)	(C)	

※【参考】成果目標①に関連するメディア使用に係るアンケート結果(肯定的回答の結果)

対象	質問	前期	対象	質問	前期
児童	TV・ビデオ視聴時間 1日2時間以下	78% (市74%)	保護者	ゲーム、スマートフォン使用についてルール、約束を決めている	75% (市82%)
児童	ゲームで遊ぶ時間 1日2時間以下	75% (市79%)	保護者	(お子さんは)ルールや約束を守って、ゲーム、スマートフォンを使用している	70% (市80%)
児童	携帯電話・スマートフォン使用時間 1日2時間以下	81% (市83%)			

【後期に向けて】

「自分の健康・元気は自分でつくる」という姿勢を向上させるための取組みを継続します。

- 全身持久力(シャトルラン)、スピード(50m走)、筋パワー(立ち幅跳び)の体力レベル向上が課題です。体育科授業ウォーミング・アップに取り組むメニューを設定し毎回実施したり、業間運動(杉の子タイム)の内容を課題克服に特化したりして、体力向上を図ります。
- メディア・コントロールのポイントは「自分で使用を止められる」ことです。特にスマホやゲームとの適切なかわり方を身に付けることが課題です。個別の保健指導を中核に、PTAや家庭と協力して、手立てを講じ、適切にメディアとかかわる態度を育てます。